

令和3年度 学力向上指導改善プラン

三田市立上野台中学校長 藤井 許善

学校教育目標		夢や未来を創造し、確かな学力と豊かな心でたくましく生き抜く生徒の育成			
推進主体		管理職と研究推進担当・生徒指導担当・教科代表により 学力向上推進委員会を設置			
学力に関する前年度の状況・経年の課題等					
学力の状況	国語	未実施			
	数学	未実施			
定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	〇学年が進むにつれて、テスト勉強に対する意識の高まりがみられる。 ◆生徒自身が学習方法を工夫することに課題がある。(経年)				
	〇グループワークや話し合い活動に積極的に参加し、問題解決を図ろうとする意欲は高い。 〇「がんばり学びタイム」を活用した、放課後教室や質問教室などへの参加者が増加した。				
学習習慣等の状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	未実施			
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	〇授業のわかりやすさに関する肯定的評価が85%を超えている。			
校内研究の状況	校内研究の状況	〇授業力向上に関する教員の意欲の高まりがみられる。 〇「脱講義型」「脱活動主義型」をキーワードにした授業開発が進んでいる。授業公開期間を設け、相互研修することができた。			
	校内研修の状況	〇「通級指導の取り組み」についての研修を行った(令和2年度より通級指導開始)。通級の目的をはじめ、基礎的環境整備の充実が、すべての生徒にとって学びやすい学校になることを共通理解することができた。(8月) 〇英語の授業の中に生徒として教員が参加、タブレットの使い方を学ぶ研修を持った。(11月)			
家庭・校種間連携	家庭・地域等の状況	〇学校だより、生徒指導通信、学年だよりを活用し、継続して家庭や地域への啓発を行った。			
	小・中における教科連携等の状況	〇4小学校で、小学6年生対象の体験授業(社会)を出前授業した。 〇新入生の春休みの課題とその確認テストを実施した。			
		4月～	2～3月		
学力向上に向けての重点的な目標		成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)		
年度末評価		(今年度の成果と来年度に向けた課題等)			
			評価		
学力の状況	①学力向上へ向けた授業改善の推進 【「脱講義型・脱活動主義型」に基づく授業開発、家庭と連携した学習環境づくりの推進、学び方を考える機会の確保】	・授業公開期間を実施し、相互研修を行う。 ・教科横断的な視点でカリキュラムマネジメントを推進する。 ・生徒の学ぶ意欲を高める自主学習の推進 ・新たな学習評価に係る研修の充実・推進【指導と評価の一体化】	・ICT(情報通信技術)機器を積極的に活用し、より効率的、効果的な授業をめざす。 (生徒一台、タブレット使用) ・学習意欲を高め、学ぶ姿勢づくり、授業規律や学習規律の徹底と学習形態の工夫を行う。 ・昨年度同様、授業公開駅伝等を実施し、職員間での風通しをよくし、授業力向上を目指す。 ・授業改善を推進し、生徒が「楽しい」「できた」「やった」と実感できる授業実践を進める。 ・自主学習(探求・課題解決的な学び)の啓発を行う。 ・教員同士で検討し、明確にする。 ・評価に関する実践事例を蓄積し、共有する。	・情報教育担当を中心に、職員対象の研修会の機会を多く設け、タブレットを使った授業の実践に向けて取り組むことができた。 ・生徒がタブレットを文房具のように持ち歩き、適切に、積極的に活用できるようになった。 ・学校生活アンケートの、「学力向上の取り組み」という項目で生徒の肯定的評価の割合が約8%増加し、約94%と良好な結果であった。また、「授業以外の時間も自主的に学習に取り組んでいる」という項目では、生徒の肯定的評価は約90%と低くはなかったが、保護者の割合が70%程度にとどまり、「意識の差」が気になった。家庭学習は目に見えるが、学校の休み時間やバス待ち時間(スキマ時間)に取り組んでいることが保護者に伝わらず、また生徒の頑張りや、テストの得点、成績にすぐに表れていないことが考えられる。そのため、生徒の頑張りや情報を発信することを大事にしたい。 ・授業はいつでもだれでも見ることができるという考え方であるが、特に集中して公開期間を設けることで12月、1月の2カ月間、授業公開駅伝を実施し、互いの授業力向上につなげることができた。	B
	②人権教育の推進 【自他を大切に、前向きで心豊かな生徒の育成(敬愛)めざす生徒像より】	・PTAと共に、全校生徒を対象に人権講演会を実施する。 ・教員対象に人権教育研修会を実施する。 ・小学校ブロック別人権研修会に中学校担当者が参加する。 ・同和教育を要とした研修の実施。	・校内道徳人権委員会を中心に、情報交換を行いながら系統だった特別の教科道徳を行う。 ・校区内小学校とも連携し、小学校ブロック別人権研修会に中学校担当者が参加し、研修・研鑽に努め、全教職員で情報共有する。 ・地域の実態や実践から差別を許さない、差別を見抜く生徒の育成をめざす研修を積み重ねる。	・校内道徳人権委員会が中心となり、年間計画をもとに道徳教育を推進することができた。 ・コロナ禍でブロック別人権研修会や校内研修(講師予定)は未実施。	B
	③特別支援教育の充実・基礎的環境整備の実践 【すべての生徒にとって分かる授業や達成感を感じる活動の工夫と充実。「ステップ」学級の充実と支援の工夫。支援を必要とする生徒の理解と支援の工夫】	・巡回相談、教育相談を学期に1回以上実施する。	・巡回相談・教育相談を活用し、支援を必要とする生徒個々の理解と支援を丁寧に行う。	巡回相談、教育相談、通級指導の充実を図ることができた。	A
	④不登校生への支援の充実 【生徒の居場所づくりや専門家・関係機関との連携】	・専門家や関連機関、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを活用した取り組みを進める。 ・スクールソーシャルワーカーの学期に1回以上の各小学校への訪問	・スクールカウンセラー等を活用した研修会を実施する。 ・教育相談や家庭訪問を行い生徒の実態把握を行う。 ・生徒と保護者の困り感を把握する。	・月1回の「こころのアンケート」、教育相談やUeチューター制度等により、生徒の悩みに気づくことにつなげた。	A
	⑤学校園所の連携の推進 【生徒の成長を「線」で捉え、子どもを中心に据えた、生徒が安心して学べる学習習慣づくり・学校づくり。家庭での学習習慣づくり】	・上野台中学校区幼小中全教職員対象合同研修会を実施する。(7月30日予定)	・学習指導、生徒指導、特別支援教育、キャリア教育で幼小中連携の充実を図る。 ・『みんな育てよう』をもとに実践的な連携を進める。	・合同研修会を夏休みに実施し、職員間での切磋琢磨(クリティカルフレンド、批判的仲間)することの大切さを再確認することができた。	B
	⑥地域との連携の推進 【三田型コミュニティー スクールの実施により、家庭・地域との連携のさらなる充実生徒の地域貢献活動・体験活動を工夫し、学校・家庭・地域がつながるより良い教育環境づくり。多様な地域や外部の教育力の活用】	・地域の教育力の活用をより一層進め、生徒の地域貢献活動や生徒会・部活動等でのボランティア活動を進める。	・地域や保護者のボランティアでの協力を進め、地域のまつりや地域の奉仕活動等に中学生がボランティアで参加できるように地域や家庭と協力して取り組む。	・生徒会本部役員及び、有志の生徒たちを中心に「虹プロジェクト」の取り組みを進めた。また2年生全体で、フジバカマの匂い袋を作成し、地域の方や先輩に配ることができた。 ・地域のまつりは新型コロナの影響で中止となったが、地域の方の要望による看板作成など、地域貢献活動を行うことができた。	A